

南西諸島の農業生産者の収益向上に向けた 高収益品目の選定と栽培技術の確立



南西諸島の気候風土に適し、さとうきびとの複合経営が可能で高収益を狙える品目として、エダマメ、トルコギキョウ、バレイショ、ラッカセイを選定し、その栽培技術や防除技術をマニュアルやリーフレットとしてまとめました。

これらの技術を活用することにより、南西諸島の農業の収益性向上が期待されます。

研究背景

南西諸島において、さとうきび及びその関連産業は地域経済・雇用を支える重要な産業です。しかし近年、農業者の数が減少傾向にあるなかで南西諸島における農業の収益性を向上させるためには、さとうきびとの複合経営が可能な高収益品目を導入し、経営の強化を図ることが課題です。

このため、本事業では、南西諸島の気候風土に適した高収益を狙える品目を検討し、栽培技術や防除体系の確立に取り組みました。



南西諸島のさとうきび栽培の様子



南西諸島のばれいしょ栽培の様子

研究代表機関

農研機構九州沖縄
農業研究センター

プロジェクト名

南西諸島の気候風土に適した高収益品目の検討及び
栽培技術体系の確立

研究期間

令和元年度～
令和5年度

共同研究機関：鹿児島県、沖縄県、岡山大学

主要な成果

1

奄美地域のエダマメの畝連続栽培による省力・低コスト栽培体系の開発

➡ **エダマメの畝連続栽培体系**を取り入れたさとうきびとエダマメの複合経営により、さとうきび専作と比較して**農業所得が約30%向上**

鹿児島県農業開発総合センター
https://www.pref.kagoshima.jp/ag11/pop-tech/nendo/documents/82280_20240611103327-1.pdf



●エダマメの畝連続栽培体系

11月～12月のエダマメの収穫後の畝を再利用して、4～5月に再度収穫する栽培体系。畝立て作業の省力化やマルチ資材を削減しつつ、収益を確保。

栽培方法	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
畝連続栽培 (新体系)	×	○	○	□①	○	○	○	□②	
畝更新栽培 (慣行体系)	×	○	○	□①	×	○	○	○	□②

×: 施肥と畝立て ○: 播種 □: 収穫 (①抑制栽培、②早熟栽培)

2

奄美地域のトルコギキョウ栽培について、二度切り栽培による開花促進とアザミウマ防除対策技術の開発

➡ **品種の選定、電照による開花促進と0.8mm防虫ネット**の併用により出荷本数が増え、**農業所得が10aあたり約4～10%向上**

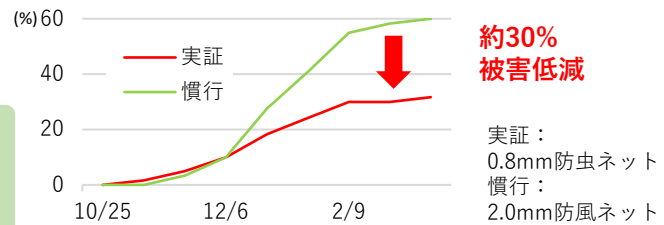
鹿児島県農業開発総合センター
https://www.pref.kagoshima.jp/ag11/pop-tech/nendo/documents/82280_20240611103507-1.pdf



●沖永良部島におけるトルコギキョウの農業所得

品種	区分	農業所得(万円/10a)	
マカナピンク	実証	517	約10%向上
	慣行	468	
ボレロホワイト	実証	382	約4%向上
	慣行	367	

●沖永良部島におけるトルコギキョウ1番花のアザミウマ類の被害株率

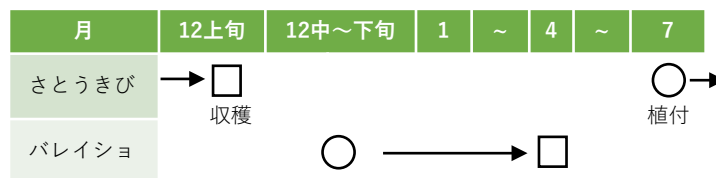


3

早期にさとうきびを収穫した後のほ場を活用して、冬作バレイシヨを導入する栽培体系を開発

➡ 耕地利用率が向上することにより、慣行体系（さとうきびとバレイシヨの複合経営）と比較して**農業所得が約13%向上**

●南西諸島におけるバレイシヨ複合経営（新作型）



●冬作バレイシヨを拡大した新作型の農業所得

	農業所得 (万円/10a)	
新作型	8.23	約13%向上
慣行	7.27	

